

有識者会議より

旧赤星邸の価値や継承すべきものとは

有識者会議より「保存・利活用に関する基本的方針」や「具体的な利活用」について助言を受ける予定です。

建物と庭との関係

- 佇まいや雰囲気
- 建物から見える庭の美しさ
- 庭から見た建物の美しさ
- 組合せ自体も非常に価値ある
- レーモンドが日本に持ち込んだ、建物の中と外の連続性、半屋外で食事をする空間
- オリジナルでは藤はなく可動式のテントで外のリビングルームとして使われていた
- 建物と庭の一体化
- 建物の中も外であるという感覚
- 何もしなくていい場所があるのは贅沢
- 五感を満たす憩いの場

暮らしの変遷・歴史

- 赤星邸を巡る様々な歴史的背景
- 「赤星家」や「赤星鉄馬」の歴史そのもの
- 歴史的価値、文化的価値の継承
- 住宅～修道院で使われたミステリアスな部分も社会的価値の一部
- 修道女会としての歴史、50年にわたる活用
- 庭は歴史的には暮らしの中で意味を持っていた
- 今までの価値とこれからの価値
- 木が大きいという事は、それだけ平和な時代が続いたということ

旧赤星鉄馬邸竣工当時の様子



出典：アントニン・レーモンド作品集 1920-1935、城南書院、1935年



出典：アントニン・レーモンド作品集 1920-1935、城南書院、1935年